

今年は田植時期等の違いによる生育の進み具合が、圃場により大きく異なります。幼穂や出穂状況を必ず確認し、穂肥や防除を行いましょ。

## 1 コシヒカリの穂肥 ～適期の穂肥で登熟期間中の稲体活力を維持！～

### (1) 肥効調節型(基肥一発)肥料体系

水をあてていても、出穂7日前に葉色が4.0(砂壤土4.2)未満と淡い場合は、追加穂肥を施用しましょ。

【YouTube】  
11 穂肥散布



【YouTube】  
12 品種別穂肥

●追加穂肥の目安(5月12日田植え、出穂予想8月2日頃の場合)

施用時期	肥料名	10a 当たり施用量
出穂7～3日前 (7/26～7/30頃)	追肥3号	7kg(砂壤土7～10kg)

水が無いと、肥料が吸えません。  
キッチリ飽水管理を行いましょ！！



### (2) 分施肥体系

●2回目の穂肥の目安(5月12日田植え、出穂予想8月2日頃の場合)

施用時期	肥料名	10a 当たり施用量	穂揃期の葉色目標
1回目穂肥の7日後(7/25頃)	追肥3号	10～13kg(砂壤土13kg)	4.2～4.5(砂壤土は4.5)

※水をあてていても、2回目の穂肥施用後に、葉色が4.0(砂壤土4.2)以下と淡い場合は、出穂3日前までに追肥3号で5～7kg/10a(砂壤土7～10kg/10a)を施用しましょ。

## 2 コシヒカリの防除 ～カメムシ注意報発令中！！～

●防除時期の目安【5月12日田植え、出穂予想8月2日頃の場合】



【YouTube】  
14 基本防除

防除時期	紋枯病、カメムシの常発地	穂揃期	基本防除	傾穂期
	出穂始め(7月30日～8月1日頃)	8月5～7日頃		8月12～14日頃
粉剤	バリダジョーカー粉剤DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	ラブサイドキラップ粉剤DL 4kg/10a (収穫14日前まで)		スタークル粉剤DL 3kg/10a (収穫7日前まで)
液剤	バリダシン液剤5 1,000倍(収穫14日前まで) + MR. ジョーカーEW 2,000倍(収穫14日前まで) 散布量: 150ℓ/10a	ラブサイドフロアブル 1,000倍(収穫7日前まで) + キラップフロアブル 1,000倍(収穫14日前まで) 散布量: 150ℓ/10a		スタークル液剤10 1,000倍 (収穫7日前まで) 散布量: 150ℓ/10a
	対象病害虫	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類、紋枯病等	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ

### ★ 農薬散布における留意点 ★

- ① 今後、高温で経過すると、出穂が早くなることがあるので、圃場毎の出穂状況を確認して適期に防除しましょ。
- ② 農薬のラベルに記載された使用量、収穫前日数等の農薬使用基準を遵守しましょ。
- ③ 防除間隔は7日を基本とし、10日以上あけないようにして下さい。
- ④ 防除は風のない時間帯に実施し、稲以外の作物や学校・住宅地等の周辺への農薬飛散の防止に努めましょ。

《微粒剤体系》 ※農薬飛散の問題がある市街地周辺、稲以外の作物が隣接する場合に使用する農薬です。

防除時期	穂揃期(8月5～7日頃)	傾穂期(8月12～14日頃)
薬剤名 (収穫前日数)	ビームスタークル微粒剤F 3kg/10a(7日前まで)	キラップ微粒剤F 3kg/10a(14日前まで)
対象病害虫	いもち病、カメムシ類、 ウンカ類、ツマグロヨコバイ	カメムシ類、イナゴ類 ウンカ類

### 微粒剤Fとは？

粉剤と粒剤の中間に位置付けられる剤型です。粉剤に比べて、散布時の飛散が極めて少ないという特徴があります。

### ★ 微粒剤使用の留意点 ★

- ① 名前は微粒剤とありますが、使用時期は粉剤と同じです。
- ② 粉剤とは散布特性が違うので、均一に散布するために微粒剤F専用ホースを使用する。
- ③ ホースはできるだけ水平を保ち、稲体よりも少し高い位置から散布する。

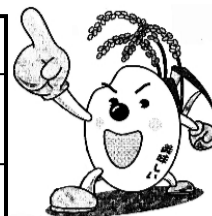
※詳細は各営農経済センターまでご相談下さい。

### 3 今後の水管理 ～生育に応じた水管理を確実に～

#### 水管理のイメージ

生育期	幼穂形成期	出穂期	出穂20日後	収穫5～7日前
水管理	← 飽水管理 →	湛水管理	間断かん水	(落水)
水量				

水尻の板をあてて、しっかり水管理をしましょう！



#### (1) 出穂期までの水管理 ～ 飽水管理 ～

幼穂形成期から出穂期までは 水分をより多く補給する「飽水管理」を行い、常に足跡や溝に水が残るくらいの状態を保ちましょう。



【YouTube】  
10 中干し後の水管理

##### <効果>

上根の発生を促進し、活力を高めて肥料の吸収を促し、茎や葉の活力を向上します。



足跡の水がなくなる前に入水を！

#### (2) 出穂期以降の水管理

登熟期間の水不足は、白未熟粒や胴割粒の発生を助長し、品質低下の大きな要因となります。生育ステージに応じ、稲体の活力維持をめざした水管理を行いましょう。



【YouTube】  
15 登熟期間の水管理

#### ① 出穂後20日間の水管理 ～ 湛水管理 ～

出穂後20日間は水深2～3cmの「湛水管理」を行いましょう。なお、水の入れ替えは適宜行いましょう。

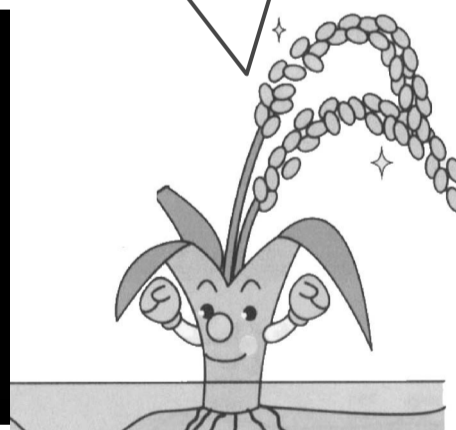
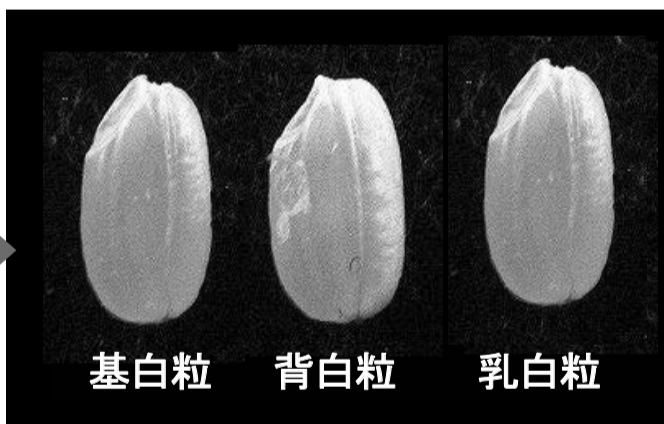
##### <効果>

根から十分に水を吸収し、葉から蒸散を盛んにし水田内の温度上昇をおさえることにより、茎や葉の活力を維持し登熟や品質を高め、白未熟粒の発生を防ぎます。同時にカドミウムの吸収を抑制します。

湛水管理で  
白未熟粒の  
発生を防ごう！



こんな米に



#### ② 収穫までの水管理 ～ 間断かん水管理 ～

出穂20日後から収穫5～7日前までは「間断かん水」とし、適正な土壤水分を維持しましょう。

##### <効果>

収穫間際まで登熟が良好に進み、乳白、背白粒等の白未熟粒や胴割粒の発生を防ぎます。

胴割米の発生  
を防ごう！

なお、収穫5～7日前に水尻の板を外して排水し、田面を固くしてコンバイン作業に支障が出ないようにしましょう。



☆下流域まで十分に水が行き渡るようかけ流しを止めて地域での計画的な用水利用に努めましょう！

☆農作業の際は、適切な水分・塩分補給やこまめな休憩など、熱中症対策を徹底しましょう！